



### 「トップアスリート」から学ぶ

緊急事態宣言の中、2学期が始まりました。不安でやり切れない気持ちがいっぱいありますが、やっぱり学校には、子供たちの笑顔と元気な声がいちばん似合うなど嬉しくなります。それぞれの夏を過ごした顔からは、久しぶりに仲間と再会できた喜び、担任の先生に話したい出来事への疼き、そして、今日からスタートした学校生活への期待が伝わってきます。

さて、東京五輪に沸いたこの夏、テレビでは連日、数々のドラマが展開されました。皆様にとって印象深く残ったのは何だったでしょう。私は、卓球混合ダブルス、ドイツ戦の準々決勝、伊藤、水谷選手の戦い振りに感動しました。

～準々決勝、最終ゲームの7ゲーム目～  
日本ペアは攻撃をすることができず、スコアは2-9、6-9までじわじわと点差を縮める日本ペアだが、6-10とマッチポイントを奪われる。でも日本ペアは決してあきらめず、水谷選手が驚異的な攻撃を見せて、4連続得点。15-14とマッチポイントを日本が握った時、伊藤選手は、この試合で始めて伸びるロングサービスを出し、崖っぷちからの大逆転をした。試合後のインタビューでは、伊藤選手は、「水谷選手のあきらめない気持ち、声も一本一本かけてくれ、顔つきもそうですし、水谷選手と組めたから勝てた」と話し、水谷選手は、「土俵際に立たされて、最後はあきらめない気持ちが勝利につながった」と答えた。

また、どの種目でもトップアスリートは、五輪であっても常に笑顔で競技を楽しみ、メダルに関係なく絶えず自分の課題を持って、あきらめず挑戦するという良いお手本を示していました。若い世代のアスリートも堂々と受け答えをする姿にとっても感心しました。

2学期は、子供たちが行事を通して大きく飛躍する時期です。学校行事では、一人ひとりがめあてを達成することも大切ですが、友達と力を合わせて進める中で、自分に自信をもったり、友達の良さに気づいたりしていきます。まさに「チーム」「仲間」として成長していくことです。また、たくさんの学習内容の習得、学年、クラスが1学期よりさらに良くなるために大切な学期です。長い2学期の間には成功体験や楽しいことばかりではなく、失敗することも我慢しなければならないこともあるでしょう。しかし、良い時もそうでない時も学校の主役はすべての子供です。東京五輪に負けないドラマがこうべの丘でも展開されるのではと、期待が膨らみます。2学期も変わりませぬご支援とご協力をお願いいたします。

九月

薩摩 忠

背がぐんと伸びたって？  
顔つきが急におとなっぽくなったって？

ぼくはぼく たしかに  
夏休み前のぼくと同じぼくなんだが……

ぼくの心の深いところに  
夏休み前のぼくでないぼくが

いつの間にか住みついていて  
向かい慣れたこの机の上なんかでは

知ることのできないなにかを  
さかんに囁くんだ

ぼくはぼく たしかに  
夏休み前のぼくと同じぼくなんだが……